

News Release

日本をおいしくする

SHOWA

昭和産業株式会社

経営企画部

コーポレート・コミュニケーション室

〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号
(鎌倉河岸ビル)

TEL. 03(3257)2042 FAX. 03(3257)2097

<http://www.showa-sangyo.co.jp>

平成27年5月14日

昭和産業株式会社 平成27年3月期決算の発表について

昭和産業株式会社（社長：岡田茂）の平成27年3月期連結決算は、売上高2,451億11百万円、経常利益81億8百万円となりました。平成28年3月期通期連結業績予想については、売上高2,550億円、経常利益88億円を見込んでおります。

【平成27年3月期連結決算】

当連結会計年度の我が国経済は、政府による経済政策の効果が下支えする中、消費者物価の緩やかな上昇が見られるなど国内景気の回復基調が続きましたが、海外景気の下振れリスクが依然存在するなど不透明な状況が続きました。

食品業界におきましても、消費税増税による影響を受ける一方、円安基調の継続等による原材料価格の高止まり等のコスト上昇圧力が続きました。

このような状況の中、当社グループは、2012年（平成24年）よりスタートした「中期経営計画12-16」がフェーズ2に入り、引き続き6つの基本戦略「①基盤事業の持続的成長」「②新たな分野への挑戦」「③海外事業の強化」「④効率化の推進」「⑤グループ連携の強化」「⑥CSR経営の推進」の下、各種施策の推進に努めてまいりました。

具体的には、「①基盤事業の持続的成長」として、糖質事業において完全子会社である敷島スターチ株式会社が製造販売していたコーンスターチや加工でんぷん他の販売について、当社へ統合することで、販売の効率化を図り、更なるシェアの拡大に取り組みました。でんぷん・糖化製品と当社の有する小麦粉や植物油などの素材を有効に活用し、当社の商品開発センター（千葉県市川市）で当社独自の用途開発やメニュー開発を推進し、高品質で斬新な提案ができる体制を構築しております。

また、「③海外事業の強化」として、製粉事業において、中国の製粉企業である大成良友食品（上海）有限公司へ出資いたしました。今後も旺盛な内需が期待される中国及び東南アジア市場への取り組みを強化してまいります。

「④効率化の推進」においては、引き続き鹿島工場等生産部門を中心にローコストオペレーションを推進いたしました。

一方、販売費及び一般管理費は発送費の増加等により、前連結会計年度に比べ599百万円増加しております。

これらの結果、連結売上高は245,111百万円と前連結会計年度に比べ1,306百万円（0.5%）の減収となりました。営業利益は7,142百万円と前連結会計年度に比べ1,408百万円（16.5%）の減益、経常利益は8,108百万円と前連結会計年度に比べ1,529百万円（15.9%）の減益、当期純利益は5,287百万円と前連結会計年度に比べ1,170百万円（18.1%）の減益となりました。

【平成28年3月期連結業績予想】

穀物の一次加工を主な事業とする当社グループは、小麦、大豆、菜種、とうもろこしなどの穀物原料相場の変動や、為替の急激な変動の影響を大きく受けます。穀物原料相場は今後も高い水準で推移し、為替も円安傾向が定着するとの見通しにより高コスト状態が継続するものと考えられます。また国内経済情勢につきましては、政府及び日銀の金融政策、財政政策等により緩やかな回復が続くとみられますが、円安基調の継続等による原材料価格の高止まり等のコスト上昇圧力等により当社グループを取り巻く経済環境は引き続き厳しい状況が予想されます。

このような状況において、当社グループは、平成24年4月より5ヶ年計画「中期経営計画12-16」を開始し、当社グループの持つ多様な事業の将来ビジョンを描き、成長戦略を遂行することで厳しい経済環境に対処してまいります。

平成28年3月期の業績は、連結売上高2,550億円、営業利益80億円、経常利益88億円、親会社株主に帰属する当期純利益57億円を見込んでおります。

以上

この件に関する報道関係者の方々のお問合せ先
昭和産業株式会社 経営企画部
コーポレート・コミュニケーション室 (久慈、久田) まで
TEL : 03-3257-2042
FAX : 03-3257-2097